

いかにあそぶ

こたつにみかんでウトウト。
これが一番気持ちイイ

ニックネーム:

本誌へのメッセージ:



きりとり

ほっとニュース

● 病院祭報告

平成 28 年 10 月 15 日に第 27 回鈴鹿厚生病院 病院祭を開催しました。毎年恒例の屋台やバザー、特別講演、よさこい、吹奏楽部の演奏の他に就労継続支援事業所などの地域の事業所、お店にも出店して頂き多くの患者さん、地域の方々に楽しんで頂きました。

来年度も今年度以上に楽しんで頂ける病院祭を開催できるように、これからアイデアを考えていこうと思います。



● 外来診療担当医表

		月	火	水	木	金
午前	初診	交代制	交代制	交代制	交代制	交代制
	再診	高山	中澤	林	西浦	鈴木
午後	再診	河合	西浦	宇佐見	高山	大井
			野村		山村	

担当医は都合により変更になる場合があります。ご了承ください。

理念 ささえあい、ともに生きる

基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
 - 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
 - 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
 - 医療の質向上に向けて日々研鑽を積み重ねます。

編集後記

今号は「新年のごあいさつ」などをお伝えしました。さて、広報委員のスタッフは「Live with すずか」の名のとおり、皆さんと一緒に創っていきたくて考えております。本誌へのご感想やご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

TEL・059-382-1401 (代表) FAX・059-382-1402
Eメール・info@skh.miekosei.or.jp

三重厚生連 鈴鹿厚生病院

第48号

2017.1月

発行/三重県厚生連鈴鹿厚生病院
編集/TCK名古屋
所在地/三重県鈴鹿市岸岡町589-2
TEL/059-382-1401
ホームページ/http://www.miekosei.or.jp/skh/

ともに生きる... Live with すずか

地域の皆さんのお役に立ちたい情報誌

平成 29 年

年頭のごあいさつ



三重県厚生連
鈴鹿厚生病院
院長 中瀬 真治

一見変わりのないことに付加価値がある

昨年は、4月に臨床心理士2名が初めて入職したほか、2名の精神科医師や他の職種でも新しいメンバーが加わりました。8月からは、血液生化学的検査を院内で行うことが可能となり、医療の質を担保する体制がいつそう整ったと考えています。また、5年ごとの第三者機関による病院機能評価も受け、当院の果たすべき役割について振り返る良い機会となりました。

こうした動きをみて思ったのですが、一見してわかる新しいこととともに、地道にこれまで行ってきたこと、ほとんど9割以上は日々似たことの繰り返しなのですが、これらを着実に続けることにも大きな価値があると、あらためて感じました。

地域づくりに貢献する

三重県厚生連の理念は「JA 三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます」というものです。この一年間、さまざまな場面でいろんな方とお話しする機会をいただく中で、今更ながら、わたしたちの理念は単に「地域に貢献する」ではなく、わたしたちが提供できる医療や福祉の活動を通じて「地域づくりに貢献する」ことであると気づきました。三重県厚生連のひとつの病院として、当院の「ささえあいともに生きる」という理念とともに、いかに地域のニーズに添えていくかを念頭に置き、病院運営をしていきたいと考えています。たとえば、この鈴鹿・亀山地区において、一般的な精

神科医療に関しては地域で完結できることも、「地域づくり」には役立つと思っています。

「私は、見当違いの問いにもっともらしい答えを出すのではなく、正しい問いに対してまずまずの答えを出したい」とは、アメリカの戦略家、アンドリュー・マーシャルの言葉です。わたしたちの病院活動においても、患者さんやご家族、そして地域のみなさんから期待される問い(ニーズ)を正しく捉えたいうえで、まずは完璧でなくとも、少しでもより適切な答えが出せるよう常に心がけたいと思っています。

どうぞ本年もご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

取材撮影：TCKnagoya